民報ゆうばり

待望の“りすた”オープン！

バリアフリー＆低料金　積極的に活用を

学習室（８席）

南支所

教育委員会

りすた図書館

【施設の利用時間と料金】毎日午前９時～午後９時

施　設　名	定員	基本料金
◆多目的室１	２０名	130円（１時間）
◆多目的室２	３０名	230円（１時間）

（※多目的室１と多目的室２はつなげて使用できます。）

◆多目的室３（防音）	２０名	130円（１時間）
◆多目的ホール	２００名	650円（１時間）
◆ゆうばりっ子ひろば	（乳幼児・児童、親子向け）	無料

※健診やサークル活動など行っている場合は利用できません。

◆待合交流スペース・展示ギャラリー　毎日６時30分～午後９時

※占用利用（展示など）の場合：１日あたり1,000円

◆りすた図書館　13,000冊　無料

閲覧：毎日　午前６時30分から午後９時まで

貸出：午前９時から午後６時まで（土曜日は午後４時まで）

※貸出休業：日曜日、祝日、年末年始

◆学習室　無料　毎日午前９時から午後９時まで

※上記使用時間には、準備及び後片付けの時間も含みます。

市外の方のご使用や、入場料を徴収する場合、商業活動の目的で使用する場合は、割増・加算料金があります。

多目的ホールにおいて準備、後片付け及びリハーサルの目的で使用する時間の使用料は基本料金に７割を乗じた額となります。

●備品内容・使用料

・テレビ・プロジェクター・ビデオデッキ（テレビ込）・DVDプレイヤー（テレビ込）・音響ワゴン・ステージスピーカー・ワイヤレスマイク（ハンド型・２本）・ワイヤレスマイク（タイピン型・２台）・移動式マイク・スピーカー・有線マイク（２本）・電源（多目的室に電気機器を持ち込み使用する場合）～各110円

・アップライトピアノ～360円

●お問い合わせ

りすた利用予約・りすた図書館　電話：0123-57-7583

ゆうばりっこひろば

待合・交流スペース

展示ギャラリー

野呂栄太郎 没後86周年碑前祭

２月19日長沼町野呂碑小公園で、野呂栄太郎没後86周年碑前祭が開催されました。野呂栄太郎は１９００年４月30日長沼村生まれ。15年私立北海中学校入学。20年慶應義塾大学入学。24年「資本論」日本労働学校で講述。26年「学連事件で検挙。４月18日慶應義塾大学卒業。同年12月「日本資本主義前史」。27年３月「同発達史」脱稿。30年ごろ日本共産党に入党。33年塩沢富美子さんと結婚。33年８つの論文・主張「赤旗」掲載。11月28日検挙。１９３４年２月19日獄死　33歳。

碑前祭挨拶で国賠同盟（治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟）南空知支部長の藪田亨さんは野呂氏の業績をたどり、特高警察の国民抑圧の犠牲になった野呂栄太郎を偲びました。

また、来賓では長沼町農民協組合長や教育長に続き、前衆議員はたやま和也氏や「西田信春」―甦る死（上杉朋史著）の著者夫人上杉キミ子さん、国賠同盟道本部会長宮田汎氏などが挨拶しました。

続いて長沼町、栗山、南幌、岩見沢、美唄などの首長や議長からのメッセージが披露されました。

くずさんの夕張歴史散歩（130）

明治維新　44／朝鮮植民地支配

前記に続いての「西四辻」が書く＊保護条約強要の場面です。

駄々をこねるようなら

こうして強引に閣僚の条約賛成の多数をとり、後は皇帝の聖断を仰ぐことになります。

これを『待っている間に、突然韓・参政大臣が声を揚げて哀号しだし別室に連れ出された』

『この時伊藤侯は他を顧みて「**あまり駄々をこねるようだったら殺ってしまえ**」と**大きな声で囁いた**。』

大きな声で囁いたのでなく、ほかの大臣に向かって大きな声で言い放ったのでしょう。

ほんとうに殺ったのか

いよいよ皇帝の裁可が出て調印になっても、参政大臣は戻ってきません。『そこで誰かがいぶかると、伊藤侯は呟くように「**殺ったのだろう**」と澄ましている』

閣僚の中に日本語が分かるものが２～３人いて『これを聞くとたちまち隣から隣へとささやき伝え、調印は難なくバタバタと終わってしまった』

『その時すでに東の空はほのぼのと白みかかっていた。**こうして成立した協約こそ、世にいわゆる**日韓保護条約と**呼ばれているもの**である』

こうして「西四辻」自身も、慨嘆を含んで結んでいます。

このようにこの保護条約なるものは、どこから見ても、対等な国と国の間での合意にもとずく条約とは言えません。銃剣を突きつけての脅迫以外にありません。

とどまらない謀略

１９０７年（明治40）にはハーグ密使事件を口実に、韓国皇帝を強制的に退位させます。そのうえ京城を中心に起きた反対運動を軍隊の力で抑え、第３次日韓協約へと進みます。

＊日本の侵略と「歴史教科書」吉岡吉典著より

岩渕友「国会かけある記」

参議院議員

岩渕　友

現場の実態にあった対策を強く求める

新型コロナウイルスをめぐって、安倍首相が全国一律で小中高校の休校を要請したことで、不安と混乱が一気に広がりました。しかも、学校は休みだけれど、保育園や学童保育は開所。矛盾しています。安倍首相の記者会見では、なぜこのような要請を行ったのか、その科学的な根拠は示されませんでした。しかも、親が仕事を休んだ場合の休業補償はどうするのかなど、これから10日かけて考えるというのです。財政的な裏付けをもった対策が必要です。

来年度予算案には、新型コロナ対策費は１円も計上されていません。衆議院では野党が共同で予算の組み替え案を提出しましたが否決。アメリカは約２８００億円、シンガポールは約５０００億円規模の予算を投入するとしていますが、日本は当初は予備費で１０３億円、総事業費１５３億円という規模。その後、２７００億円の予備費を活用すると発表しましたが、十分といえるのか。

中国から材料が入ってこず、工場を稼働できないという事業者の声や、学校給食がなくなったことで、牛乳やパン、野菜などを納めている業者や生産者から不安の声なども寄せられています。あらゆる分野に影響が広がり、長期化する可能性もあります。

予算案の審議は参議院に移りました。検査体制や医療体制の拡充も含め、国民の命と健康、生活と生業を守るため、現場の声を聞くことと実態にあった対策、抜本的な財政措置を強く求めたいと思います。